

伝統文化に触れ ふるさとを好きになる

仲間と共にまちづくり

「酒田青年会議所の魅力は、若く自由な創造力を持つ20代と、仕事やまちづくりで経験を積んだ40代までの人たちが一緒に

学び、活動できるところにあります」と語る阿部さん。

6年前に、異業種の人たちと知り合って、酒田のまちづくりに自らの経験を生かすことではできないかと考え同会議所へ入会。



これまで仲間たちと酒田という郷土を思う心をひとつにして、活動してきました。「突っ走ってきたけれど、どの年も充実していました」と今までを振り返ります。

伝統の中に新しさを求めて

酒田まつりの宵祭りに登場する立て山鉾やまぼこの高さは22・36メートル。これは鳥海山の標高2千236メートルに合わせたもの。山鉾はその高さから、これまで市街地で山車行列に参加することができませんでした。しかし阿部さんたちは今年、巡行できるサイズの山鉾を作成し、山車行列に参加します。「毎年、山鉾制作や山車行列などに参加する塾生を募集し、まつり塾を行っています。塾生たちには、酒田まつりとはどんなものかということから学んでもらっています」

Contents — もくじ — ● 5月2日号

- | | |
|-------------------------------------------------------|-------------------------|
| 2 さかたの風／ジオパーク構想リレーコラム | 26 酒田っ子すくすく子育て講座／さかたの旬 |
| 4 特集 鳥海山・飛島ジオパーク構想 | 27 おしごと拝見／地震への備え、万全ですか？ |
| 10 ズームアップ酒田 | 28 各種相談／はんこたんな／休日診療所 |
| 12 市政ピックアップ
新しい広聴・市民提案の仕組み／市営住宅・公共賃貸住宅
入居者募集 ほか | 29 ボイス オブ アランマーレ |
| 18 情報ボックス／さかた情報ひろば | 30 市役所へ行こう／編集後記 |
| | 31 もしえのん・あののん プロフィール紹介 |



日本海と大地がつくる 水と命の循環
鳥海山・飛島ジオパーク構想
リレーコラム 第17回



さかたの風
 酒田から発信
 活躍するあの人に会いたくて

Relay Column 17
寺田寅彦と飛島

寺田寅彦氏（1878年〜1935年）は、東日本大震災後に注目された物理学者の一人です。「震災は忘れた頃にやってくる」の言葉を残したことでよく知られていますね。寺田氏は日本海沖合の奥尻島、飛島、佐渡島などが本土の沿岸と並列していることに着目しました。そして、日本列島が大陸から分離して日本海ができたときに、これらの島々が取り残されたのでは

ないかと考えました。この考えはドイツの気象学者アルフレート・ヴェーゲナー氏が1912年に提唱した大陸移動説に影響を受けたものです。寺田氏は、1928年と1929年に飛島の柏木山、酒田の飯森山、にかほ市の三崎山に設置された三角点をもとに位置観測を行い、日本で初めて大陸移動説の検証を試みしました。その後の観測も含めて、年々本土と飛島との距離

が縮まっているというデータが得られました。まだ有意な結果とは認められていません。現在、柏木山、飯森山、三崎山にはそれぞれ経緯度観測点の測量台座がひっそりと残されています。土木建築の近代化遺産としても価値の高いもので、ジオパークでも、壮大な夢を抱いた先人の足跡を残していく必要性を感じています。



飛島柏木山の測量台座



鳥海山・飛島ジオパーク
 構想推進協議会専任研究員
岸本 誠司氏

**子どもたちに酒田まつりを通して、
 酒田を大切に思う気持ちを育んでもらいたいですね。**

と話します。巡行する山鉾は、山王まつりの時代から導きの神様といわれる猿田彦を模したもので、まつり塾の総勢約100人と一緒に巡行します。

祭りを学び、地域を知る

「祭りを学ぶことは、木や水などさまざまなものに神様が宿る

と考え、それを大切にする日本人らしい精神につながると考えています。地域に伝わる祭りを通して、地域の歴史や自分たちの成り立ちを学ぶことができる。そうすることで自分たちの祭りや地域が好きになり、大切だと思える気持ちにつながっていくと「思っています」と、酒田のまちづくりに関わりたくいと活動して

きた阿部さんの言葉に力がこもります。400年を超える酒田まつりの伝統を支え、そこに若い力を結び付ける阿部さん。酒田まつりまでもう少し。そのまなざしの向こうには、伝統の中にも新しさを感じさせる風がきらりと輝いています。



山鉾制作する塾生たち



酒田青年会議所で酒田まつりの伝承に役買っている伝導戦士「タテヤマン」

お問い合わせ／市観光振興課観光企画係 ☎26-5759